

砥鹿

三河國一之宮 砥鹿神社

平成27年 新春号 (119号)



砥鹿神社六角十二支絵馬



神鹿絵馬殿夫婦鹿と子宝仔鹿



迎春

宮司 香取 武

新年明けましておめでとうございます

平成二十七乙未年を迎え、謹んで聖寿の萬歳と皇室の弥栄を言祝ぎ奉り、国家の安寧と世界平和を祈念申し上げます。

又氏子、崇敬者の平素のご崇敬に感謝申し上げますと共に、今年も各家平穩で豊かな年となりますよう冀う次第です。

顧みますに、昨年は自然災害の怖しさを痛感させられ、人間のひ弱さを身に滲た年でありました。また自然災害のみならず、凶悪な犯罪が頻発し、殊に子供等の生命が無惨にも失われる状況は、現代社会の暗部そのもので、人心の荒廃此処に極まれりと思わずにいられません。

私達の社会は科学技術のお蔭で充分恩恵を享受されている反面、社会通念としての倫理観、道徳観の欠落が人間相互間の尊厳を失い、エゴイズムのみが増大していることに目を向けなければならないうと思う。察するに、倫理道徳観の頹廃は「宗教」感覚への極端な程の忌避に一因を成しているのではなからうか。

本年は終戦七〇年、又長崎、広島被爆七〇年でもあります。現在、私達の社会が豊かに繁栄し、国家の存続をみるのも、数多の尊い人命の犠牲のうえに成り立ったもので、祈りを捧げ、感謝せずに居られません。此の平和が幾世代も重ねていきたいと誰もが思う。しかし世界は我国一国にあらずで、様々な国々と、それに伴う国際環境の中で存在し、現憲法は平和憲法であるからと思ひ込み、一人合点で安心して済まされるものでもない。世の中万事に云える事だが、「備え有ればうれいなし」この格言を良く噛み締めたものです。

本年も更に国内平安に、四海平穩ならんことを砥鹿大神様に御祈念申し上げ、一層の御加護を賜わりたいと思います。



賀 正

総代長 草鹿砥 宣和

明けましておめでとうございます

新春を寿ぎ、氏子ならびに崇敬者の皆様にはご機嫌麗しく新しき年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は台風の接近や上陸等がありましたものの、幸い当地方は大きな災害もなく比較的平穏な年でありました。

砥鹿の御社頭は、ご祈禱、ご参拝の方々と賑わうなか、前年の神宮式年遷宮と総参宮の気運の高まりもあり、取り分け遠方からご参拝の方々が多かった様に見受けられました。

四月には愛媛県今治菊間町に鎮座の砥鹿神社の宮司様はじめ総代、氏子の皆様大勢のご参拝がありました。同神社には三年前私ども揃って参拝し、皆様にお持て成し頂きました。

再会に感動いたしますと共に、御神縁の尊さを深く噛締めた次第です。ご祈禱やご参拝の方々の控室、客殿が年頭より使用が開始され、皆様のこれまでのご不便がようやく解消して安心してご参り頂けるようになりました。

客殿には、四月に豊川市在住の書家鈴木瑞象氏奉納の『游神』の書額が待合室正面に掲げられ、さらに七月には豊川市出身の大森運夫画伯奉納の油絵大作『御陣乗太鼓』が入口正面に飾られました。御神前へおもむかれる前に寛ぎ、心を整えていただく場所として一際重みが加わりました。砥鹿神社におかれましては歴史と伝統を重んじ、氏子崇敬者ならびに参拝者のすべての方々に細やかな対応を尽し、さらに懸案の境内整備を着実に取進めておられます。

これから地元の皆様はもとより、広く遠方からも一層多くの方々にお参り頂きたいと願う次第です。

本年も御例祭をはじめ諸祭事諸行事が盛んに行われますよう努めて参る所存でございますので、何卒宜しくご支援賜りますようお願い申し上げます。

大神様の御加護のもと皆々様が益々御繁栄されますことを御祈念申し上げます、年頭の御挨拶といたします。



慶 賀

崇敬会会長 大澤 輝秀

崇敬会会員の皆様、明けましておめでとうございます。年頭にあたり御健勝御多幸をお祈り申し上げます。

昨年を振り返りますと、消費税増税、デング熱の国内感染、御嶽山噴火、そして広島・高知・長野等各地での土砂災害が想起されます。また台風が発生すると、しばしば「過去最大級の〇〇」という表現で報道されていたようにも感じます。今年は太平洋戦争終結から七十年、阪神淡路大震災から二十年にあたります。先人達は、荒れ地となった郷土を何年も何十年も先のビジョンを考えぬいて復興させ、戦災や自然災害を乗り越えてきました。この節目の年に今一度、現代の平和と繁栄が過去の努力の上に成り立っているという恩恵に感謝し、先人に恥じぬ地域づくりを皆様とともに推し進めていきたいと思ひます。

当会の活動につきましては、九月十八・十九日に出雲大社を正式参拝致しました。会としては久々の一泊旅行でしたが、御案内早々に定員を上回る御応募をいただき、盛会となりました。また文化講座として昨秋西尾市岩瀬文庫見学、東海道掛川宿散策、磐座探訪の三講座を実施し、それぞれの地域に伝わる文化への造詣を深めました。更に十二月二十一日には、本宮山奥宮にて麦とる会を行いました。御参加いただきました皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

これから砥鹿の大神様、そして参拝者の皆様に喜んでいただけるような事業を行っていきたいと思ひます。本年も当会の一層の充実と発展に努める所存でございます。会員の皆様におかれましては、お一人でも多くの方が崇敬会に御入会いただけますよう御鳳声いただけます幸甚に存じます。どうぞ変わらぬ御芳情御高配を賜りますようお願い申し上げます、年頭の御挨拶と致します。

謹賀新年

名誉宮司 高谷 彌五郎

二槇 一彦

代表役員 香取 武

宮 司

総代長 草鹿砥 宣和

責任役員

責任役員 今泉 淳乙

今泉 清

田口 智

梅村 和光

林 重男

近田 孝夫

今泉 勝

近田 孝夫

大高 博嗣

祢 宜

大村 昭人
小田島 丈夫

権 祢 宜

齋藤 康徳

片岡 昭宣

内藤 正之

三宅 勝晴

鈴木 巖

穂坂 憲児

神島 崇

大木 繁徳

嬉野 通斎

菅 陽紀

宮下 宗士

加藤 智己

新井 真美

高田 真穂

樋口 夏美

河合 優佳

富田 みずき

大城 ゆい

松倉 真理子

崇敬会役員

名誉会長 香取 武

宮 司

会長 大澤 輝秀

副会長 日比 嘉男

草鹿砥 宣和

顧問 山本 明彦

鈴木 克昌

今枝 宗一郎

根本 幸典

杉田 元司

小林 功

野中 泰志

洪谷 幸信

大木 光章

藤原 俊男

林 伸之

松尾 浩志

渡辺 宗敬

本多 克弘

菅沼 洋史

監

事

伴 正男 浅野 靖宏 岩瀬 行雄 小澤 信夫 久具 信行 鳥居 雅康 夏目 義昭 渡辺 義昭 土井 淳乙 今泉 和光 梅村 重男 林 孝夫 近田 茂洋 近田 博嗣 大高 重子 清水 和子 山崎 尚美 竹本 尚美 田口 智 (順不同敬称略)

崇敬会会員名簿

名誉会員

アート・タカムラ

(株)アイ・エス・オー

青木公認会計士

税理士事務所

浅野桂

アルデックス(株)

井川肇

石田勝子

市川洋至

伊藤誠也

今泉和雄

今泉淳清

今泉都志弘

今泉文一

今枝宗一郎

岩瀬安次

岩瀬靖宏

梅村重哲

梅村武司

大岩明子

大岩利依子

大木光章

大澤輝秀

大高博嗣

大谷一雄

株式会社大槻装束店

大友堅治

小澤行雄

寛登希義

カトー水工

神谷義和

川合克也

川端建設株式会社

川原義之

川淵勝也

川淵啓治

川淵博也

河村憲正

北村信夫

久具信和

草鹿砥宣

黒瀬恵美子

源馬啓仁

小島坦文

小西充洋

小島重功

小林建吾

小林康敏

近田明久

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

近田敬一

手嶋玉枝	寺部卓三	寺山賢司	戸河里敏次	戸川勇	トピー工業(株)	富田英男	富田弘年	長坂義之	中島啓	中畑勇	西谷美数	野々村壽博	畑野貴代	浜島豊博	林幸良	原功一	原田吉勝	伴野喜四郎	伴野奎子	伴野英夫	平松昭信	平松和男	平松祝子	平山智也	廣中七清	福田素純	藤井智司	(有)プロシード	星野久雄	(株)ホワイト商会	本田克介				
本田房枝	(株)ボンとらや	眞木宏哉	間瀬和重	(株)丸八製菓	丸山治男	宮脇恭子	森島勝義	(株)森田屋酒店	八木利治	八木洋一	山内敏博	山中裕	山本明彦	山本孝雄	山本芳彦	山本英央	吉田哲也	渡邊久子	渡邊久子	渡辺久代	正会員					青谷浩壯	浅井むね	浅岡朝夫	朝倉俊治	阿部昌司	天野勝文	天野きよ子	新井興治	新屋修	安藤正和
飯田源治	生田富夫	井口直久	伊沢青果(株)	石川鶏子	石川則男	石田修	石田伸治	磯部美智子	市川栄二	立木健一	井戸正巳	伊藤明房	伊藤崇史	伊藤忠志	伊藤照代	伊藤初江	伊藤秀高	伊藤文治	伊藤雄治	伊藤幸男	伊奈勝治	稲垣勲	稲野穂	井上繁	井上弘	井上浩	井上尚	井上	今井	今泉民	今泉登	今泉陽美			
今泉英明	今泉浩之	今泉行男	岩瀬淳一郎	岩瀬正雄	岩田勝治	岩田昌山	岩田昌雄	岩永喜代人	岩本晃二	岩鷗飼芳男	宇野しげ子	宇野久子	宇野功一	宇野和則	梅村豊一	梅村久子	榎田卓弘	追分雅博	大岡満夫	大沢二朗	太田浩一	太田輝男	太田いそ子	大竹末英	大竹孝之	大竹行	大谷弘	大谷博弘	大林喜六	大原慎司	岡田富子				
岡田文人	岡本光子	岡山義松	小川藤吾	荻野喜久男	尾崎勝三	尾崎昌宏	尾嶋滋樹	小田昌弘	小野隆真	小野野隆	小野文男	小野正文	小野正見	小野田容子	小柳津登一	垣内直之	影山昭博	笠原隆二	片山隆二	加藤秋男	加藤温山	加藤一美	加藤ふみ	加藤豊	加藤好子	加藤貴信	金田貴澄	金田昭	金田昌叶	神谷昌	神谷壽英				
神谷英男	神谷豊	神山利子	河合稔	河合合	城所勝太郎	木村弘美	木本幸江	久島祐輔	楠野理	久世正至	工藤和子	国枝健次	黒田隆志	小池明史	小池君枝	向坂邦雄	香高基行	小久保典	小久保寛	小久保貞臣	小杉弘夫	後藤えみ子	後藤政光	小林シズ	小林彰ズ	小林孝彰	小林史寛	小林寛	小川泰一	駒崎幸夫	小松忠司				
近田俊恵	権田茂喜	近藤邦夫	近藤憲市	近藤浩行	近藤弘	近藤康弘	齋藤貢一	(有)サウンドプラン	酒井清通	酒井晋二	坂田一富	坂上美智子	桜井俊明	桜井俊明	桜沢健一	佐藤真一	佐藤英治	佐藤英雄	佐野吉久	塩野谷哲司	清水健市	清水重子	清水泰幸	(有)シャルレシャト	白井敬司	白井宏尚	白井元義	白井利明	菅沼健次	菅沼洋史	杉浦篤				
杉浦一男	杉浦和男	杉浦正治	杉浦八重子	杉原滋典	杉山智基	鈴木明美	鈴木克典	鈴木克介	鈴木克亮	鈴木鶴雄	鈴木敏郎	鈴木富枝	鈴木宣枝	鈴木宣男	鈴木健男	鈴木恵造	陶山秀志	陶部幸司	大豊コンクリート(株)	鷹取春幸	高野哲	高橋温	高橋芳弥	田口数子	田口正士	田口尚	竹内正士	竹腰芳志	竹田要司	竹本靖史	立川靖雄				

中村滋利	中村勝代	中村圓一郎	中野良	中野照子	中野明美	仲田光夫	中嶋昭二	中澤理男	長坂雅仁	中川光枝	中尾智一	中尾泰通	内藤春江	内藤照男	内藤朝喜	鳥居裕泰	鳥居武志	豊田精三郎	富山三男	遠山清美	出口哲也	鶴見富子	株式会社都筑連	谷口邦三	田邊道夫	田中博信	田中秀松	田中克典	田中桔生
平松輝夫	平岩良二	平日比	彦坂光	彦坂一	伴敬一	春田尚子	原田露子	林正樹	林利剛	林哲朗	早坂賀禎子	蜂須賀禎子	波田浩平	長谷川弘	博愛堂倉庫株式会社	萩本詩郎	乗松康代	野口佐知子	根本章	新田登	西村正隆	西谷隆	西川よね子	仲山隆	中山幸三	中山義邦	中村みつ	中村春次	中村耐子
宮川昌久	三ツ矢央	水野孝久	水島義之	三浦和子	真野かつよ	松本屋本店	松本健文	松元秀治	松井せつ	松井礼	増田賢次	政本良平	牧野宏泰	牧野拓夫	牧野純久	牧野義一	前田治子	前田茂樹	本田恭子	堀部皓三	(株)ほの国百貨店	(株)インテリジェンス	(株)ブリエール&船場英夫	藤下昌宏	藤下昌宏	福井康雄	福井早美	福井伸示	深津治史
吉野由美	吉野満	吉野昇	吉野梅	横田敏	(資)山安食品店	(株)ヤマモトシキ	山本佳史	山本康代	山本みち	山本多賀夫	山本俊也	山本茂之	山下政篤	山崎憲雄	山口幸雄	山岡浩二	森田一彦	森田義司	森下義則	森下節司	望月のぶ子	村松八千代	村田延夫	村田敏男	村田房象	宮本利登	宮島夫	宮下康夫	



度会尚志	渡辺力夫	渡辺佳成	渡辺直則	渡辺幸一
山崎和子	水野ツヤノ	長谷川弘子	長坂全	滝川キミ
				鈴木みよ子
				鈴木美保子
				久米ふさ子
				大谷みち子
				荒川栄子
				新井里美

二月二十二日(日)
午前十時〜午後六時
ブライダルフェア開催
ブライダル相談会開催中

- (株)まきやす衣裳店
- (有)花幸 東京屋美容室
- (株)加古家具店
- (株)テラヤマ (株)ブリエール & インテリジェンス
- (資)山安食品店 ヒラヤマフォト
- (株)ボンとらや (株)森田屋酒店
- 絹一製菓(株) (株)ほの国百貨店
- まる伊料理店 (有)サウンドプラン
- 吉野館 大高米穀店
- (有)カネシメ魚店 (株)モーシヨンスタイル
- 写真の原田 ケサコ美容室
- ミカド写真館 (資)高運堂印刷所

あけまして
おめでとう
ございます
砥鹿神社結婚式場
福寿会

年頭祭典案内



里宮



氏子青年会による甘酒接待

歳旦祭並氏子献穀祭

一月一日午前六時
年始めに皇統の繁栄・国家
安泰・家内安全を祈願する祝
いの初めの祭儀である。外拝殿
には氏子より奉納された新穀
が献供される。
本社にて厳かに祭典を行い、
撰末社を巡拝する。

田遊祭

一月三日午後二時半
(豊川市指定文化財)
五穀豊穡を祈る。初詣の参
拝者で賑わう本社拝殿前西の
庭上に榊葉を敷き詰め、これ
を田所として、氏子より選ば

れた代官、田主、田人が田打
ちから稲の収穫までの年間の
耕作の様を演じ、豊作を予祝
する。



田遊祭

弓始祭

一月八日午前十時



弓始祭

一年の邪気退散を祈る。鯛
が掛けられた鯨幕に、鬼に見
立てた的をつるし、県弓道連
盟東三河支部の御奉仕により
真榊で作られた黒木の弓で白
羽の矢を射る。本社と八幡宮
には紅白の算木餅が松竹梅の
枝と共に供えられる。

初えびす祭

一月十日終日

事代主命をおまつりし、三
河唯一のえびす社である当神
社の撰社二宮社にて、年の始
めに商売繁盛・生業繁栄を祈
願する。当日は福引きも行わ
れ、各地から祈禱者が訪れる。



初えびす祭

火焚祭

一月十五日午後二時

神前に納めた願串や祈願絵
馬、祈願職などを焚き上げ、
諸願成就を祈願する祭典で、
神事後細かく砕いた鏡餅を細



火舞祭

火舞祭

二月七日午後六時
(豊川市指定文化財)
忌火を用いて火災疫病より
免れるよう祈願する祭儀であ
る。神事中火を鑽るとき、その
発火の遅速、或いは焰の上る具
合により、その年の火難の有無
大小を判断すると云い伝えら
れる。



火焚祭

竹に刺して火にかざし、参拝
者が拝戴する慣習がある。

本宮山奥宮

歳旦祭

一月一日午前六時
年の始めに皇室の弥栄、国家安泰を祈る祭典である。境内は初日の出を奉拝する登拝者で賑わう。

宝印祭

一月六日午後一時
奥宮本社下方の末社守見殿神社にて斎行。厄難消除・無病息災が祈願される。祭典後は参拝者に秘伝の宝印が授けられ、宝印符、沓型餅が頒布される。寒中登山者が多い。



宝印祭

粥占祭

一月十五日午前八時
(豊川市指定文化財)



粥占祭

その年の農作物の豊凶や天候風雨を占う農耕神事である。前日宮司以下登山参籠潔斎の後、十五日早晩、神水にて粥を炊きあげ、農産物、海産物の名を印した竹の管二十七本を入れ、かき混ぜる。この後各々の竹の管につまった粥の量を卜定する。古くより「オタメシ」、「オクダガイ」と言われ、参列者には粥占符が授与される。

奥宮例祭

二月六日午前十時
山上極寒の中行われる大祭である。
祭典奉仕員は前日より本宮山奥宮に於いて参籠し、清浄を極めて奉仕をする。

節分厄除祭の案内

二月三日斎行

おなむちのみこと

*大己貴命の霊妙なご神徳による古来より伝承の節分厄除祭を斎行し、世の中の邪気を祓い、禍神を退散させる。大神様の御神徳によって、厄年の方々を始め、広く一般の人々の福德円満の御祈願を致します。

年男年女豆撒式

午前の部

*十時 節分祭

豆撒き 十時半より

*十一時半 節分祭

豆撒き 正午より

午後の部

*一時 節分祭

豆撒き 一時半より

*三時 節分祭

豆撒き 三時半より

豆撒きには多数の景品を準備して福を頒ち合いますので、是非御参拝いただき、福をお受け下さい。



節分祭



福樹

年男年女奉仕者募集

豆撒き奉仕者の多数の参加をお待ちしております。
お問い合わせは砥鹿神社社務所まで。

TEL 0533-932001
FAX 0533-937888

社頭点描

JAひまわり献穀米 奉納奉告祭齋行

豊川市のひまわり農業協同組合より、愛知県農業祭献穀事業にて収穫したお米の奉納があり、十一月五日に権田晃範組合長をはじめ献穀者柴田勝氏、奉耕者牧野晃也氏らの参列のもと、奉納奉告祭を斎行し、祭典後神納書を授与した。この献穀米は新嘗祭で和稻として神前に奉献された。同事業は、十一月二十三日の宮中での新嘗祭にあたり、皇室へお米を献上するというもの。

明治二十五年から始めて百二十二年となる今年は同組合が担当し、市内東上町の斎田にて、地鎮祭、播種祭、御田植祭、刈穂祭等神事を行う一いつ初穂を実らせた。



献穀者柴田勝氏（左）と香取宮司

崇敬会文化講座開催

砥鹿神社崇敬会では、昨秋文化講座を三回実施した。

①昨夏当社で重要文化財後奈良天皇宸翰般若心経の複製を製作したことを機に、十月三十一日に所蔵元の西尾市岩瀬文庫を訪れ、同経の実物原本と、企画展「江戸の風景」広重『名所江戸百景』と岩瀬文庫所蔵の江戸風景画』とを、同文庫林知左子学芸員による解説のもと見学した。そして午後からは、西尾市がお茶の産地であることから、葵製茶に赴き、抹茶の製造過程を見学し、試飲を楽しんだ。



後奈良天皇般若心経を見る参加者

②十一月六日、東海道の宿場整備によって発展を遂げた各地の文化や名

所旧跡を学ぼうと、今回は五十三次のうち二十六番目の宿場町である掛川宿を選定し、掛川城と資生堂アクトハウスを見学した。今後も東海道五十三次めぐりは継続し、次回は名古屋市熱田区の宮宿の予定。



掛川城ではボランティアガイドの説明をうけた

③十一月二十八日には「磐座信仰を探究」と題し、新城市石座神社の石座石、浜松市渭伊神社の天白磐座遺跡、蒲郡市岩上神社の岩神様、同市大蔵神社の岩壁を訪れた。これは社殿建築以前の古い神道祭祀への理解を深めることを目的として実施され、参加者は磐座を通し、巨石や珍しい形の石を畏敬してきた祖先の自然観に思いを馳せていた。

AED講習実施

境内で参拝者が倒れた際、現場の神職や巫女が適切な救命活動を行えるよう、十月七日に豊川市消防署員の指導のもと、AED講習を実施した。救急車が到着するまでの数分間の応急処置が生死の境界をも分けるとの事であり、人形を用いた心臓マッサージや人工呼吸、そしてAED（自動体外式除細動器）の使い方の訓練を行った。



心肺蘇生の手順を学ぶ



11月28日 天白磐座遺跡にて

施設児童七五三詣

十一月七日に、豊橋市・豊川市内の六ヶ所の児童養護施設の七五三詣で当児童の皆さんを当社にお招きし、七五三詣を行った。この行事は、同所の児童が、皆と同じく楽しくお祝いできるように、そして元気に成長しますようにとの願いを込めて行われるもので、折柄には福笹と千歳飴を授与し、社務所にてせんごいをふるまった。

また当日は、十一月二十一日に五歳の誕生日を迎える地元豊川市のゆるキャラ「いなりん」も一緒に参拝し、子供たちと記念撮影を行った。

一宮とが交通少年団
活動報告

一宮とが交通少年団は、九月十四日に境内で、お年寄りや子供等交通弱者を事故から守る啓発チラシ配りを行った。十一月三日には、七五三で賑わう境内にて募金活動を行い、寄せられた善意金を、財団法人交通遺児育英会へ送った。そして十二月六日には豊川警察署員の指導のもと交通安全安全教室を実施した。

八月五日に豊田スタジアムで開催された愛知県警主催の「交通少年団集合訓練」と同月二十一日に豊川市文化会館で開催された「第五回豊川市安全なまちづくり推進大会」に参加した。以下に団員の作文を紹介する。



少年団集合訓練

豊川市安全なまちづくり推進大会に行つて

市川 加恋

私は、初めて推進大会に行きました。

大ぜいのお客さんの前で、大会宣言をすると聞いて、とてもきんちょうしてしまいました。

みんなで練習したときは、声が小さくて、バラバラだったけど、何回も練習をして、本番は、声も大きく、みんなそろって言えたので、私はとても、ほっとしました。

けいさつの音楽たいのえんそうは、私もしっている曲や、知らない曲もあったけど、どの曲もみんな息がぴったりそろっていて、とてもはくりよくがあって、上手だったので、すごいと思いました。

えんそうしている人たちの前に、ダンスをおどっている人たちがいました。

もっている旗を投げたりして、びっくりしました。お母さんが、けいさつの音楽たいは、なかなか聞けないよと言っていたので、私は、今回さんかできて、よかったです。

豊田スタジアムでの体験

森増 終矢

ぼくが豊田スタジアムに行つて一番印象に残った事は、たつ急便のクロネコヤマトさんが教えてくださった死角についての事です。ぼくは、最初はこういう意味なのか分からなかったけど、話を聞いていくと、トラックの窓から見えない所が死角というらしくて、その死角の中に人がいても、運転手からはその人が見えないという事がとてもこわい事だと思いました。

次は、時速五kmの車でえん石にぶつかった時の体験で、シートベルトの大切さが分かりました。時速五kmでもほん動がすごかったけど、もしも六十kmの車でえん石にぶつかったらどうなるかを考えただけでも、すごくこわいです。なので、ぼくはこれからもシートベルトをきちんとつけようと思いました。

今回の体験で、運転手からの気持ちや交通事故のおそろしさが分かりました。



ブライダルフェア

模擬挙式
模擬披露宴
会場コーディネート展示

平成27年2月22日(日)
10:00～18:00

本番さながらの挙式の流れを見ることができます
照明演出や、キャンドルセレモニーなど実際の雰囲気体験!!

奉納菊花展開催

七五三詣で賑わいをみせる境内で、近隣の愛好家の方から御奉納いただいた菊花展が実施された。今回の奉納数は前年より二十鉢多い七十五鉢となり、色鮮やかに咲き誇る菊花の前で、記念写真を撮る親子連れも多く見られた。また十二月四日には、終了奉告祭並表彰式が行われた。

平成二十六年 菊花展奉納者芳名

砥鹿神社賞

銀賞

銅賞

丸山 元殿	山口耕太郎殿	宮本 義弘殿	白井 政治殿	大槻 長人殿	田中 健二殿	伊藤 克典殿	武雄殿	義視殿	野末
一色 昇殿	稲垣きく代殿	都築 保夫殿	渡辺 はや殿						

新崇敬会員紹介

(カッコ内は紹介者)

(平成二十六年九月一日より
十一月三十日まで)

名譽会員

豊川市 井川 肇様
(夏目宏一様)

特別会員

田原市 本田 克介様
(渡邊久子様)

正会員

豊川市 鈴木 鮎子様
(村瀬房子様)



平成二十七年一月一日発行
発行所 砥鹿神社社務所
砥鹿神社崇敬会
豊川市一宮町

電話 〇五三三

制作・印刷
アート、タカムラ

電話 〇五三八

三四一四五三